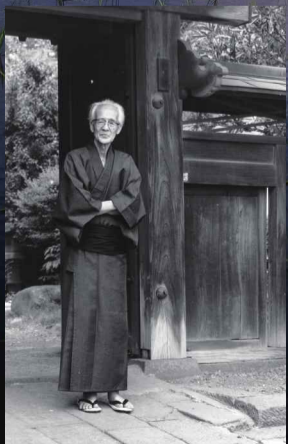


- 2 省エネ住宅の導入などを支援
- 3 がん患者の補整具購入を助成
- 4-5 特集 厚木の偉人「デビュー100年」
和田傳が記した厚木の地
- 6-8 街の話題/コラム/お知らせ

作家が見てきた 郷土と人

和田傳の著作「湿地」の装丁にも描かれている恩名から見た風景



恩名の自宅前に立つ
和田氏(1982年撮影)



昭和30年代・一面に水田が
広がる本厚木駅周辺

《4・5面に関連記事》
問あつぎ郷土博物館 ☎25-2515

デビューから100年の節目に、作家
が歩んだ道をたどってみました。

風唄う峠路に
蝸牛はひとり白雲と語る
尾根みちはのぼりくだり
ほそほと果てなくつづくが
つねに風のなかで
人もひとり行くしかない道である

厚木中学校前の文学碑に、作家の言葉
が残されています。

植えられたばかりの苗の間を風が吹き
抜け、水面に映る大山の稜線を揺らしま
す。かつて、市内の至る所で見られた、
初夏の厚木の風景です。大きな河川と平
野が広がる厚木は、肥沃な水田地帯でし
た。そこに生きる人々の姿を小説や随筆
として残した作家・和田傳。没後、名を
冠した文学賞が設けられ、今も多くの
人に知られています。

デビュー100年
郷土の作家 和田傳

Q Zoom Up

カーボンニュートラルの取り組みを後押し 省エネ住宅の導入などを支援

市では、地球温暖化の原因となる二酸化炭素（CO₂）の排出量を減らすため、太陽光発電システムや蓄電池などの設置費用を補助してきました。7月からはさらに、対象の拡大や補助額の増額など支援を充実。導入を後押しし、環境に優しいまちづくりを進めていきます。

市では、CO₂の排出量と吸収量を均等させ、実質ゼロにするカーボンニュートラルを目指しています。2021年には「ゼロカーボンシティ」を表明し、環境に配慮した取り組みを実施。太陽光発電や蓄電池、エネルギー管理システム（HEMS）などを導入する省エネ住宅の設置費用を補助してきました。さらに7月からは、対象を拡大し、補助額を増額しました。

最大で約160万円を補助

充実したのは、太陽光発電システムの導入などの費用です。これまでの1

キロワット当たり1万円の補助に加え、売電せず全て自家で消費する住宅には、1キロワット7万円の加算を設けました。エネルギーを生産し消費を実質ゼロ以下にする住宅「ゼロ・エネルギー・ハウス」への奨励金に加え、新たに省エネで環境性能に優れた住宅「LCCM住宅」の導入に60万円、断熱窓への改修費用に最大30万円を補助するなど対象を拡大。共同住宅の電気自動車充電器の設置の他、団体・事業者向けの補助も対象を拡大しました。

省エネ住宅を導入した松本孝さん（38・金田）は「設置には費用がかかるので、補助金があってよかった。環境に良いのはもちろん、光熱費の軽減にもつながっている」と話します。

未来を見据えた取り組みを

市では3月、カーボンニュートラル達成に向けた道筋を示すロードマップを策定しました。公共施設への太陽光発電システムの設置やCO₂排出量が実質ゼロとなるEVごみ収集車の導入など、CO₂削減に取り組んでいます。地球環境と私たちの未来を守るため、力を合わせてできることから取り組んでいきたいと思います。

環境政策課 ☎25-2749



住宅に設置された太陽光パネル

カーボンニュートラルの補助金概要

■住宅省エネ設備導入促進奨励金

《補助額》（リースなども対象に拡大）

- ・太陽光発電 = 1キロワット1万円（上限6万円）
 ①自家消費加算 = 1キロワット7万円（上限42万円）
- ・蓄電池 = 5万円
 ①自家消費加算 = 1キロワット約5万円
- ・HEMS = 1万円
- ・家庭用燃料電池 = 5万円

■省エネ住宅導入促進奨励金

《補助額》

- ・ゼロ・エネルギー・ハウス = 10万円
- ・①LCCM住宅 = 60万円
- ・①断熱窓 = 最大30万円

■電気自動車購入奨励金

《補助額》1台20万円

■電気自動車共同住宅充電設備設置費補助金

《補助額》①共同住宅の充電器設置150万円



厚木市は国の脱炭素重点対策実施地域に選定されています。



その他補助金や申請方法などはこちら

環境政策課 ☎225-2749

愛TV 7/1~

皆さんのアイデアを

市制70周年記念事業・キャッチフレーズを募集



厚木市は2025年2月1日に市制施行70周年を迎えます。記念の年を盛り上げるための事業アイデアや、キャッチフレーズを募集します。

企画政策課 ☎225-2450

■記念事業（25年2月1日～26年1月31日に実施）

皆さんが実施してほしい・してみたいと思う事業のアイデア。

■キャッチフレーズ

「あつぎ（厚木・ATSUGI）」や「70」などの言葉を使用するなど、70周年記念にふさわしいもの。最優秀作品は市民投票で決定。

公共施設や市HPにある応募用紙を直接または郵送、Eメールで7月31日（必着）までに ☎243-8511 企画政策課 ☐1100@city.atsugi.kanagawa.jpへ。



詳細は市HPに掲載

安心な学校・保育生活を

医療的ケアが必要な児童・生徒に訪問看護師を派遣

日常的な医療的ケアが必要な児童・生徒が安心して学校などに通えるよう、訪問看護事業者から看護師を派遣します。

《対象》①市立小・中学校や幼稚園、認可保育所（3歳クラス以上）に通うまたは見込み②経管栄養、導尿など、短時間で定時の処置が可能な医療的ケアが必要—の全てを満たす市内在住の児童・生徒

《事前相談》

小・中学校 = 教育指導課 ☎225-2675
 幼稚園 = こども育成課 ☎225-2262
 保育所 = 保育課 ☎225-2231

※担当課へ事前相談後、学校・幼稚園・保育所、訪問看護事業者、主治医に相談。保育所は4月入所が原則のため、事前相談後、1次入所申し込みが必要。



学校で医療的ケアを受ける児童

事前相談後に配布する申請書、主治医の指示書の写し、校長・所長の承諾書の写しを持ち、直接担当課へ。



一人一人に合った補整具を選ぶことが大切

Zoom Up

がんになっても自分らしく 補整具購入の助成開始

がんになると体や心に大きな負担がかかり、生活に影響を及ぼします。市では、患者の経済・心理的負担を減らすため、7月から新たに医療用補整具の購入費助成を始めます。

補整具で自分らしく生きる

がんは、日本人の2人に1人がかかるといわれる身近な病気です。多くの人が、治療の副作用による外見の変化で、今まで通りの生活が送れなくなる不安を抱えています。市では、がん患者の方が安心して生活と治療を両立できるように、新たに医療用補整具の購入費用などの助成を始めます。

助成の対象は、がん治療による容姿の変化を補うための医療用ウィッグや乳房補整具です(左欄参照)。ウィッグは、頭にかぶるものや部分的に覆うものなどがあり、乳房補整具は、公衆浴場で付けたまま入浴できる種類もあります。自分に合う補整具を選ぶには、高いもので数十万円の費用がかかります。市では、購入費用のうち上限5万円までを助成。がん治療と生活の両立を支援します。

市内に住むがん患者の方は「医療用ウィッグは、自分の日常を守るために欠かせないアイテム。購入費用を助成してもらえるのは心強い」「治療費も

かかる中、実費で購入するのは限界がある。助成金は大きな助けになる」と話します。

早期発見・治療のために

市では、がんになってからの支援だけでなく、早期発見に向けた検診にも力を入れています。がんは初期段階で発見できれば、9割が完治するといわれています。早期のがんは症状が現れず発見が難しいため、定期的な検診が重要です。6月には、40歳以上の男性と20歳以上の女性へ受診券を送付しました。早期発見・治療のため、検診を受けましょう。

健康な暮らしは誰もが願うことです。市では今後も、検診や助成、相談、講座などで、皆さんの健やかな生活を支えていきます。

健康づくり課 ☎25-2201

がん患者医療用補整具購入等助成金

■対象者 申請日に市内在住で、がんと診断されて治療を受けた、または治療中の方

■対象補整具

《医療用ウィッグ》全頭用・部分用ウィッグ、毛付き帽子、付属品(頭皮保護用ネット、ウィッグスタンド、くし、クリーナーなど)
《乳房補整具》補整パッド、人工乳房(体内埋め込み型を除く)、補整着、入浴着、付属品

■助成額 ウィッグ、乳房補整具各上限5万円

※いずれも4月以降の購入費用、レンタル料、購入時の送料、保守料金、診断書作成手数料が対象

■健康づくり課や市HPにある申請書を7月1日から健康づくり課へ。



詳細はこちら

健康づくり課 ☎225-2201

水の事故に注意

市内の河川では毎年、水の事故が発生しています。安全に過ごすためのポイントを押さえて、川のレジャーを楽しみましょう。

- 事故を防ぐポイント
- 子どもだけで遊ばない、遊ばせない
 - 水辺にいる子どもから目を離さない
 - 泳ぐ力を過信せず、無理をしない
 - お酒を飲んだら、水に入らない
 - 溺れている人を見つけたら大声で近くの人に知らせ、すぐに119番通報
 - 応急手当ての知識を身に付ける

事故に遭わないために

昨年は12件の水難事故が発生しました。水の事故は誰にでも起こり得ます。自身の泳ぐ力を過信せず、川の様子が少しでも変わったと感じたら、水から出るようにしましょう。特に飲酒をした後、川に入ることは避けてください。



警防課 鈴木 大樹(38)

警防課 ☎223-9368

重症化すると命の危険も 熱中症に警戒

梅雨が明けるこの時期は、熱中症のリスクが高まります。ポイントを確認して、楽しい夏を過ごしましょう。

健康長寿推進課 ☎225-2174

◆室内に潜む危険

昨年度、熱中症で搬送された人の約40%が屋内で発症しています。屋外だけでなく、屋内でも注意が必要です。

◆年齢問わずに警戒を

子どもや高齢者は症状に気づきにくいので、周りの人の注意が必要です。

◆予防するには

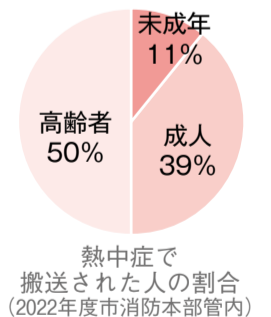
- ・エアコンを使用
- ・のどが渇く前に水分・塩分を補給
- ・日傘や帽子、通気性の良い涼しい衣服を着用

◆熱中症かなと思ったら

涼しい場所に避難し、冷たいタオルなどで体を冷やして水分や塩分を補給しましょう。

◆熱中症警戒アラートの活用

危険が高まるとテレビ、防災無線、環境省公式LINEなどで発表されます。外出を避けるなど対策を取りましょう。



アラートの詳細と環境省公式LINEの登録はこちら





身に着けていた眼鏡や腕時計なども展示

民俗学の見地から



琉球大学名誉教授 小島 瑠璃さん

時代を記した作品

和田傳の著作は、戦前・戦中・戦後の農家の様子を描き、農村社会の記録を詳細に残しています。元内閣総理大臣の竹下氏が「和田傳の農民文学は私に大きな影響を与えた」と記録があるほど、農民の生活をリアルに描いています。昔の厚木を知ることができる大切な資料といえるでしょう。

小島さんは講演会②の講師を務めます。

参加無料 デビュー100年「和田傳」再発見

今甦る あつぎの明治・大正・昭和を生きた作家の真実

■展示

デビュー作「山の奥へ」の校正過程の原稿や「門と倉」の直筆原稿3300枚などの他、今まではあまり目にできなかった中学生時代に書いた作文なども展示します。

- 【日にち】7月22日～9月18日
【場所】あつぎ郷土博物館
●ギャラリートーク…学芸員が展示を解説
【日時】7月22日・8月19日・9月18日 14時～14時30分

■関連企画

- ①館・館スタンプラリー！
【日にち】7月22日～9月18日
【内容】中央図書館と博物館で台紙にスタンプを押すと缶バッジをプレゼント
【定員】各館100人
②ワークショップに挑戦！
和田氏や厚木に関する問題に挑戦

■講演会

- 文学と民俗の二つの見地から読み解きます。
①和田傳文芸百年記念展覧会に寄せて
【日時】7月29日 14～16時 【定員】40人
②和田傳と民俗
【日時】8月27日 14～16時 【定員】40人

■講座

- 絵や文字を書く楽しさを体験できます。
①「描くってたのしい！」夏休み、お絵描き教室
【日時】7月23日 9時30分～12時、13時30分～16時
【対象】小・中学生各回15人
②「書くってたのしい！」夏休み、文章教室
【日時】8月6日 10時30分～12時、13時30分～15時30分
【対象】午前＝小学1～3年生20人 午後＝小学4～6年生20人

いずれもあつぎ郷土博物館。☎電話またはファクス、Eメールに〒住所、氏名、電話番号、学年を書き開催日の10日前までにあつぎ郷土博物館☎246-3005・☎8650-3@city.atsugi.kanagawa.jpへ。抽選。☎

■映画「鯨雲」の上映会

- 【日時】9月2日 14時～16時30分
【場所】保健福祉センター
【定員】200人
☎往復ハガキに〒住所、氏名、電話番号、参加人数を書き、8月18日(消印有効)までに〒243-0206下川入1366-4あつぎ郷土博物館へ。1枚で5人まで申し込み可。抽選。

和田傳の著書販売

【販売する本】 いわし雲、山の奥へ
【価格】1冊200円(予定)
【販売場所】 あつぎ郷土博物館
出版から年月が経過し、入手が難しい物ばかりです。この機会に当時の厚木の人々の生活を感じてみませんか。

作品を讀もう

展示や講座などの詳細はこちら



あつぎ郷土博物館☎225-2515



厚木の偉人「デビュー100年」 和田傳が記した厚木の地

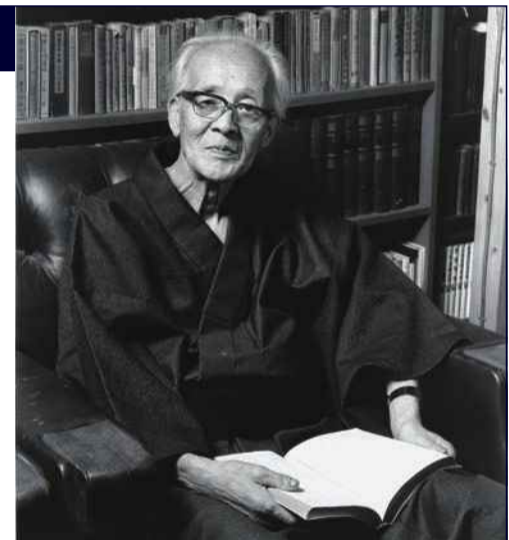
和田傳は85年の生涯の多くを厚木で住ごし、目に映る人々や社会の変化を作品にした作家です。親族や関係者の言葉、100年を記念した展示などから、作家の人柄や歩んだ人生に触れてみませんか。

あつぎ郷土博物館☎225-2515

和田 傳

〈プロフィール〉

1900～85年。本名・和田傳。通称・和田傳と呼ばれる。南毛利村恩名(現在の厚木市恩名)の地主の長男として生まれる。県立厚木中学校(現県立厚木高校)を卒業し、早稲田大学仏文科に進学。23年に「山の奥へ」を発表。38年「沃土」で第1回新潮社文芸賞を受賞。代表作には「大日向村」「日本農人傳」「鯨雲」「門と倉」などがあり、「鯨雲」は58年に映画化。55年に神奈川文化賞を受賞し、85年に厚木市名誉市民となる。



愛TV 7/1～



本人を撮影
加藤 芳明さん(80・旭町)
厚木に著名な作家がいることを知り、知人を通じて和田さんを撮影しました。会ってみると口数が少なく寡黙な方でしたが、縁側でお茶を飲んでいる様子を撮りたいと伝えると、快く湯飲みを準備し腰かけてくれました。後日、プリントした写真を持って行くと、縁側で撮影した写真を気に入り、笑顔を見せられたのを覚えています。

寡黙で静かな印象

厚木に著名な作家がいることを知り、知人を通じて和田さんを撮影しました。会ってみると口数が少なく寡黙な方でしたが、縁側でお茶を飲んでいる様子を撮りたいと伝えると、快く湯飲みを準備し腰かけてくれました。後日、プリントした写真を持って行くと、縁側で撮影した写真を気に入り、笑顔を見せられたのを覚えています。

加藤芳明さん撮影(1面と右の写真も)

書籍などを収集



吉田 隆一さん(73・旭町)

吉田さんが所蔵する絵日記なども博物館に展示します。

生涯書き続けた文学者

厚木の文学者ということで、20年ほど前に和田さんの資料を集めるようになり。中学生の時に書いた絵日記や和田さんに届いた手紙の封筒など、集めた物は2000点を超えます。今はインターネットで情報を集められますが、当時はなかったので、国会図書館へ行き知識を深めました。多くの資料を見ると、和田さんは晩年まで書き続けた人だと思えます。展示を見て、和田さんの人柄なども感じてほしいです。

和田傳文学賞

今年で37回目を迎える和田傳文学賞。和田傳の遺志による寄付で創設された「厚木市和田傳文学基金」で開催しています。児童・生徒が詩、作文、短歌、俳句で自分の思いを自由に表現し、文学に親しむのが目的です。



中央図書館の常設展示

和田傳の写真や書籍などを展示しています。和田傳全集など一部のものは借りられます。

【販売する本】

「和田傳 生涯と文学」
【内容】和田傳が神奈川新聞に執筆連載した「わが人生」を中心に収録
【価格】1500円

愛甲小学校校歌 ※4
作詞 和田傳
作曲 和田美津子
玉川のほとり 愛甲野
仰ぎ見る 丹沢の尾根
遠き富士の嶺
高く清らかに
われらここに 心勇みて
集い 学ぶ
われら
愛甲小学生



▲小学校周辺を流れる玉川

「沃土」が第1回新潮社文芸賞を受賞 ※3

第6回芥川賞の審査会でも最高点を獲得していたが、すでに新潮社文芸賞に内定していたため、受賞には至らなかった。初版本の装丁は、農民が着る野良着や布団の生地などとして織られていた「秦野木綿」が用いられた。



自宅撮影(1935年)

Timeline of Wada Denji's life from 1900 to 1985, including education, literary awards, and family events.



▲厚木中学校前に設置された文学碑の除幕式 ※5

和田傳の孫 太田 麻生さん 祖父の記憶

祖父は欲がなく、高身長と風貌が相まって仙人のような人でした。口数は多くありませんでしたが、要所で発する鋭い一言が印象的です。祖母が作る当時は珍しいグラタンが好物で、食べることが好きな一方でお酒はとて弱かったです。農地改革がされた時には「時代の流れだ」と、こうなることを分かっていたような反応をしていたそうです。先見の明があった人なのだと思います。

Timeline of Wada Denji's literary and personal milestones from 1900 to 1986.



▲戸室周辺の田園風景(1975年ごろ)



▲相模川(1934年ごろ)



▲相模厚木駅 ※2

Section titled 'Michi' (Path) featuring a portrait of Wada Denji and a collection of his works.

▲こんには厚木 No.3 「より豊かな広がりを」市制20周年記念特集より

10月にがんの知識の普及啓発イベントを開催

がんと働く応援団らが市長に報告



啓発の横断幕を持つ山口市長(中)と応援団の皆さん

がん経験者たちが、治療と仕事の両立などを支援する市民活動団体「がんと働く応援団」が10月に開催する啓発イベントを市長に報告しました。

イベントは、市民活動団体と市が協力し、地域社会の課題解決に向けて取り組む「市民協働提案事業」の一環。がんの知識や検診の普及に向け、医師やがん経験者で歌手の麻倉未稀さんを招いた講演会などを実施します。ウィッグの着用体験や厚木はやぶさFCとの交流ブースも設置予定です。

応援団の野北まどか 共同代表理事は「子どもから大人まで楽しめるイベント。気軽に足を運んでほしい」と参加を呼び掛けました。

牛乳を飲んで酪農家を応援

本厚木駅前消費拡大を呼び掛け

6月1日の「牛乳の日」に併せ「牛乳を飲むMOWキャンペーン」を実施しました。市内の酪農家や職員ら18人が紙パックの牛乳や啓発物品を歩行者約300人に手渡しました。キャンペーンは、飼料価格・電気代の高騰などで全国的に厳しい経営状況の酪農家を応援するため、初めて実施。市内酪農家と市、農業協同組合が協力し牛乳の消費拡大を呼び掛けました。

参加した酪農家の小野晴巳さん(64・荻野)は「朝の慌ただしい時間でも牛乳を受け取ってくれてうれしかった。消費者と顔が合わせられ、また頑張ろうという気持ちになった」と笑顔で話しました。



子どもたちに牛乳を手渡す酪農家



最優秀賞の2作品が実物に

デザインマンホールふたを設置

記念し下水道に関心や親しみを持ってもらうため開催。「厚木の魅力」をテーマに公募し、応募総数346点の中から小学生以下部門と一般部門で最優秀賞を決定しました。

今後は、より多くの皆さんにデザインを目にしてもらえるよう、マンホールカードも作成予定です。



小学生(左)・一般部門(右)のデザイン

マンホールデザインコンテストで最優秀賞に選ばれた2作品のふたを製作し、本厚木駅前設置しました。2作品は、設置に先駆け6月、中央図書館と市役所に展示。北口に小学生部門の瀬沼歩美さん(妻田小)、南口に一般部門の野村涼香さんの作品を配置しました。

歯を守っていつまでも健康に

歯と口の健康週間行事を開催

6月4～10日の「歯と口の健康週間」に併せ、厚木歯科医師会が歯科医師のなりきり体験や歯並び相談など、歯と口の健康を学べるイベントを開催しました。

参加者からの歯並びや子どもの歯磨きなどの相談に、歯科医師や専門学校の学生が、ケア方法や道具の選び方など一人一人にポイントを解説。なりきり体験では、白衣を着た子どもたちが歯科医師に扮し、実際の治療で使用する器材と虫歯の模型を使い、歯の治療体験に挑戦しました。



真剣な表情で治療に挑戦

親子で参加した堀本彩さん(34・戸室)は「子どもの歯並びに不安を感じていたので参加した。歯科医師に相談できる機会があった」と話しました。

第4回 みんなで目指そう カーボンニュートラル

カーボンニュートラル(CN)とは、地球温暖化の原因である温室効果ガスの排出を減らし、植林や森林管理などによる吸収量を増やすことで、実質ゼロを目指す取り組みです。連載では、今日から挑戦できる取り組みを紹介しつづけます。

今月の挑戦 太陽光発電を知ろう



屋根だけでなくカーポートタイプのパネルもある

CNの達成には、再生可能エネルギーの活用が不可欠です。太陽の力で発電する太陽光パネルもその一つ。設置費用は10年前に比べ約38%下がり、平均で150～200万円です。

7月から設備の導入費や自家消費などの補助金が充実しました。最大で65万円を補助し、設置する家庭や事業者を応援します。

CNプラットフォームでは、補助金の情報などをより詳しく掲載しています。

環境政策課 ☎225-2749



「いつまでも恵みを与えてくれる母なる川で在り続けてほしい」。5月下旬、相模川クリーンキャンペーンで河原の清掃をした後、子どもたちと一緒にアユの稚魚を川へ放しました。元気に泳いでいく稚魚と子どもたちの生き生きとした笑顔に、未来の厚木の姿を見た気がしてうれしくなりました。

相模川の清掃は、1971年に始まった歴史ある活動です。今年には約1900人の参加があり、皆さんの

といえ、鮎まつりの花火とバーベキューで、家族との楽しい思い出がたくさんあります。きつと多くの皆さんにとっても、親しみのある大切な存在ではないでしょうか。

相模川は古くから、飲料・農業用水の供給や水運など、まちを発展させる礎となってきました。この地域に欠かせない財産を生かし、さらなるまちの活性化につなげていけるよう、そして、未来へと引き継いでいくために取り組んでまいります。



約1万匹の稚魚を放流した

変わらぬ川への愛情を感じました。6月からはアユ釣りも解禁され、遠方からも釣り人が訪れています。多くのアユが遡上し、かつては鮎川とも呼ばれた相模川。作家の和泉傳さんも、この時期になると友人たちと投網を楽しんでいたようです。私にとつての相模川

タウンガイド

7月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

8月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

☑=申し込み ☎=問い合わせ ☎=電話番号
 ☎=ファクス番号 ✉=Eメール HP=ホームページ
 📄=講座予約システム(インターネットで申し込み可)
 📺=市広報番組あつぎ愛テレビ
 市役所への郵便物は「〒243-8511〇〇課」で届きます。

あつぎのしゃしん。



「雨の夜」
 #5月23日撮影
 #本厚木駅
 #アジサイ
 #niceatsugi
 市公式インスタ
 グラムで公開中



あつぎ 起業スクール

受講生募集



市内で起業を目指す方を応援するスクールです。専門家から、経営の基本を学べます。

☎産業振興課 ☎225-2830

- 《日時》8月26日、9月2・9・23・30日、10月7日(全6回)。13~17時
- 《開催方法》オンライン(9月9日、10月7日は厚木商工会議所)
- 《内容》成功する起業の条件、マーケティング戦略、ビジネスモデルの作成、資金・利益計画、人材育成、融資制度・体験談の紹介、個別相談など
- 《対象》市内で起業予定または起業後原則1年以内の方30人
- 《費用》6000円

☑産業振興課や公民館、市HPなどにある申込書を直接または、郵送、ファクス、Eメールで7月1日~8月2日(必着)に〒243-0017栄町1-16-15厚木商工会議所 ☎221-2153・☎221-2152・✉kigyuu@atsugicci.or.jpへ。市HPからも申し込み可。選考あり。受講者にはオンライン会議ツール「Zoom」のURLを送付。

農大で生きものさがし

8月1日、10~14時。東京農業大学での生き物調査や解説など。市内在住の小学生と保護者30人。無料。☎電話またはEメールに〒住所、氏名、年齢、電話番号を書き、7月14日までに環境政策課 ☎225-2749・✉3100@city.atsugi.kanagawa.jpへ。抽選。📄

あつぎ協働大学特別講座・松蔭大学「看護の仕事体験してみよう」

8月10日、10~12時。松蔭大学。血圧測定や点滴調整などの体験。市内在住の小学4年~中学生20人。無料。☎Eメールに〒住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号を書き、7月24日までに文化生涯学習課 ☎225-2512・✉0350@city.atsugi.kanagawa.jpへ。抽選。📄

スポーツキャンプ 日体大

8月23日、8時30分~17時。日本体育大学健志台キャンパス(横浜市)。実技指導、大学生とのスポーツ交流など。市内在住の小学5・6年生30人。300円程度(保険代)。昼食・飲料代は自己負担。☎ハガキ、Eメールに〒住所、氏名、性別、電話番号、学校名、学年、取り組んでいるスポーツ、保護者氏名を書き、7月21日(必着)までに〒243-8511スポーツ推進課 ☎225-2531・✉8850@city.atsugi.kanagawa.jpへ。抽選。詳細は市HPに掲載。

救急救命講習会

- 応急手当普通救命講習会
7月20日、9~12時。消防本部。応急手当の重要性、心肺蘇生法、自動体外式除細動器(AED)の取り扱いなど。市内在住の勤在学の中学生以上30人。無料。
- 応急手当普及員講習会
8月1~3日(全3回)、9~17時。陸合分署。事業所や地域などで応急手当の方法を教える資格の取得。市内在住の勤在学の18歳以上30人。3960円(テキスト代)。いずれも☎7月3~11日に救急救

命課 ☎223-9365へ。抽選。📄

あつぎSDGsパートナーを募集

SDGsの達成や地域課題の解決に向けて取り組む企業や団体などを募集します。
 《登録のポイント》①登録証を交付②取り組みを市HPなどで紹介③オリジナルロゴが使用可能に。
 ☑市HPにある申請書をEメールで7月31日までに企画政策課 ☎225-2450・✉1100@city.atsugi.kanagawa.jpへ。

市営自動車駐車場の指定管理者を募集

《指定期間》2024年4月~(5年間)
 《資格》法人または団体。☑市街地整備課や市HPにある申請書と必要書類を7月24~31日に直接、市街地整備課 ☎225-2851へ。7月12日に現地説明会を実施。詳細は市HPに掲載。

市営自転車等駐車場の指定管理者を募集

《指定期間》2024年4月~(5年間)
 《資格》本社または営業所が市内にある法人や団体。☑交通安全課や市HPにある申請書と必要書類を7月24~31日に直接、交通安全課 ☎225-2760へ。7月10日に現地説明会を実施。詳細は市HPに掲載。

厚木農産物ブランド化事業の実施者を募集

新たな農産物のブランド化に取り組む団体などを募集します。
 《対象》市内で農業を営む団体または、市内に主たる事業所があ

り継続的に事業を営む法人。☑農業政策課や市HPにある申請書を、直接または郵送、Eメールで7月31日(消印有効)までに〒243-8511農業政策課 ☎225-2801・✉3600@city.atsugi.kanagawa.jpへ。選考あり。

特定小型原動機付自転車(電動キックボードなど)の課税標識を交付

特定小型原動機付自転車は、7月から16歳以上であれば運転免許証なしでも公道を走れるようになり、軽自動車税(種別割)が課税されます。課税標識の交付を7月3日から開始します。
 ☑市民税課や市HPにある申請書と必要書類を持ち、直接、市民税課 ☎225-2012へ。詳細は市HPに掲載。

介護保険負担割合証の更新

要介護・支援認定を受けている方や総合事業の対象者に、介護保険負担割合証を7月中旬に発送します。新たに申請した方には、結果通知と併せて発送。
 《適用期間》8月1日~(1年間)。
 ☑介護福祉課 ☎225-2393。

あつぎ食育アドバイザー養成講座



地域で食生活改善や食育を推進するボランティアとして活動する知識を学ぶための講座です。
 ☎健康づくり課 ☎225-2201

- 日程 ①9月4日~10月25日 ②11月1日~12月20日(各全10回)
- 場所 あつぎ市民交流プラザ
- 内容 講義や実習など
- 対象 市内在住の18歳以上各回16人(①は託児あり。1歳~小学3年生5人。要予約。抽選)
- 費用 2000円(食材費、テキスト代他)
- ☑健康づくり課や市HPにある申込書を、直接または郵送で8月4日(必着)までに、〒243-0018中町1-4-1健康づくり課へ。抽選。📄



インターネットモニターからの意見を紹介



インターネットモニター募集
 厚木市 インターネットモニター 検索
 ☎広報課 ☎225-2043

6月1日号「広報あつぎ」を読んで

◆酪農家にとって厳しい環境でも頑張っている姿を見ると応援したくなった/50代男性 ◆4歳の子がいるので18歳まで医療費無料はすごくありがたい/30代女性 ◆市議会議員選挙の投票率向上に関する対策なども紹介されると良い/70歳以上男性 ◆地産地消で厚木で採れた新鮮な野菜・果物・おいしい豚肉などをたくさん食べたいと思う/60代男性 ◆改めて環境月間を考えた行動をとろうと思った/50代女性

編集後記

関係者への取材で和田傳さんの性格や食の好み、当時本厚木駅周辺に広がっていた田園風景、人の暮らしぶりなども知れました。今では、大きな建物や道路の整備が進み、昔の街並みを想像することは難しいですが、和田さんの著作からは当時の農民の生活が読み取れます。皆さんも一度は名前を聞いたことがあると思いますので、展示などを通じて興味を持ってもらえるとうれしいです/黒澤

第77回
あつぎ

鮎まつり 8月5・6日

厚木の夏に「鮎まつり」が帰ってきます。花火や出店、たくさんの催しを楽しんで、夏の思い出をつくりましょう。

☎観光振興課 ☎225-2820

大花火大会

日時 5日 19時～打ち上げ 場所 相模川三川合流点

花火観覧席チケットの発売

約1万発の迫力ある花火を、打ち上げ場所の近くで見ませんか。

発売日 7月1日 10時～

場所 セブンイレブン全店

価格	厚木側 ▶ SS席 = 2万円	S席 = 1万5000円
	4人席 = 1万2000円	2人席 = 7000円
	海老名側 ▶ 5人席 = 1万2000円	4人席 = 1万円
	3人席 = 8000円	2人席 = 6000円

「みんなの花火」の募金

大会のフィナーレを飾るのは、皆さんの募金で打ち上げられるスターメインです。盛大な花火を打ち上げて、一緒に厚木を盛り上げませんか。

場所 ■1万円以上 = 観光振興課、厚木商工会議所、市観光協会

●1万円未満 = ■に加え、公民館、本厚木駅・東丹沢七沢観光案内所、郵便局

期間 いずれも7月1～31日

愛TV 7/1～

子ども鮎つかみどり

日時 6日 [1部] 9時15分～ [2部] 10時45分～

場所 相模川三川合流点 対象 5歳～小学生

抽選 7月3～17日に市HPで受け付け。各回300人。抽選

オープニングパレード

日時 5日 12時45分～13時15分

場所 中央通り～厚木なかちょう大通り

市民出店村

日時 5日 10～21時

6日 10～18時

場所 厚木中央公園

民踊おどり

日時 6日 16時～16時30分

場所 厚木なかちょう大通り

Dance Legend

日時 5・6日 10～18時

場所 厚木中央公園

祭りの最新情報は市観光協会HPへ



みこしショー

日時 6日 12時15分～13時30分

場所 厚木なかちょう大通り

30周年 自然歳時記

エサキモンキツノカメムシ

ツノカメムシ科

体長11～13mmほどで背中にハートの形をした黄色い紋が目立つ。ミズキの葉の裏で産卵した卵を守っていたり幼虫を見守ったりする姿がよく観察されている／高松山で見つけた。 写真・文／吉田文雄



山へと続く道を歩いていると、黄色の紋が目立つエサキモンキツノカメムシが落ちていた。何げなく拾い上げるとクロヤマアリがくっついてきた。「これは僕のだよ」と足を突っ張って引っばるので地面に置くと、喜んで運んで行った。「一寸の虫にも五分の魂」を思い出した。

青い種ができたミズキの木があり、数枚の葉をめくるとエサキモンキツノカメムシが、何かを大事そうに抱えていた。よく見ると、卵から幼虫へと成長したわが子を見守っていた。

子どもを大切に育てる愛情の深さを虫から教えてもらった一日だった。

厚木市の人口
(6月1日現在)

世帯数

10万4543世帯 (前月比109世帯増)

人口

22万4117人 (前月比12人減) 男11万5436人・女10万8681人